

比較検討した。術後の神経症状の悪化に対しては、手術術式による差は認められず、術中の動脈血中炭酸ガス分圧の影響によるところが大きいことが判明した。即ち、 $Paco_2$  が 35 torr 以下に減少した 10 症例では、8 例に神経症状の悪化が認められたのに対し、35 torr 以上に維持できた 13 症例では、神経症状の悪化が認められたのは 1 例のみであった。西本らは、モヤモヤ病の異常血管領域は最大に拡張して需要に応じているために炭酸ガス分圧の低下による僅かの血管収縮でさえも血流量の不足をきたすと報告している。以上からモヤモヤ病の麻酔管理では、術中炭酸ガス分圧を 35 torr 以下にしないことが重要と考えられた。

## 6. WPW 症候群根治術の麻酔経験

里見 典史・多賀紀一郎（新潟大学麻酔科）

WPW 症候群の外科的副伝導路切断術に対して大量フェンタニール麻酔 2 例を経験したので報告する。

WPW 症候群の副伝導路切断術では、術中に心表面マッピングを行ない存在部位を決定するが、このため麻酔に際しては、副伝導路の機能に影響を与えない麻酔法の選択が要求される。大量フェンタニール麻酔は、心血管系に対する影響が少ないため、開心術に好んで用いられているが、WPW 症候群の副伝導路切断術に対し、大量フェンタニール麻酔を用いた報告は少なく、また副伝導路の機能への影響についての記載もほとんどない。今回 2 例に大量フェンタニール麻酔を行なったが、いずれもマッピング等の手術操作に支障をきたすことなく、また不整脈出現や血圧の変動などもなく、良好な結果を得た。

## 7. ブプレノルフィンおよびブトルファノールを用いた GO-NLA 麻酔の臨床的比較

井比 陽・中島 民雄（新潟大学歯学部  
第 1 口腔外科）

染矢 源治・大橋 靖（<sup>同</sup>第 2 口腔外科）

ブプレノルフィンおよびブトルファノールにフルニトラゼパムを併用した NLA 麻酔を口腔外科手術に用い、呼吸循環系に対する影響合併症などに付いて比較検討した。麻酔法はブプレノルフィン群では  $5 \mu\text{g}/\text{kg}$ 、ブトルファノール群では  $0.02 \text{ng}/\text{kg}$  を投与した後、フルニトラゼパム  $0.04 \text{ng}/\text{kg}$  を静注した。結果、両群共に他の NLA 変法より循環動態が安定し、追加投与はほとんど必要なかった。覚醒は比較的すみやかで、ブトルファノール群の方が呼吸抑制は少なく、またナロキソ

ンの効果も優れていた。悪心、嘔吐はブトルファノール群の方が少なく症状も軽度であったが術後の鎮痛効果はブプレノルフィン群の方が長時間持続した。以上より両麻酔法は共に口腔外科手術において有用と思われた。

## 8. 腰麻におけるフェンタニール添加効果 —タニケットペインを中心に—

丸山 洋一・高橋 隆平（県立がんセンター  
新潟病院麻酔科）

タニケット使用下に下腿部の手術を受けた 32 例を対象とし、腰麻（ペルカミン S 3ml 使用）に添加されたフェンタニール（0.2ml）の効果を検討した。

ペルカミン S 単独使用群（16 例）でタニケット痛を訴えた症例は 9 例で、60 分以上の駆血帯使用例に限ると 10 例中 7 例と高率であったが、フェンタニール添加群（16 例）ではそれぞれ 4 例、12 例中 4 例と著明に低率であった。またタニケット痛に伴って認められる血圧上昇反応はペルカミン S 単独群  $24.6 \text{mmHg}$ 、フェンタニール添加群  $18.4 \text{mmHg}$  と、フェンタニール添加群にて有意に低値であった。フェンタニール添加によると思われる副作用は全く認められず、安全性は高いと判断されたが、術後鎮痛薬の使用状況からみるとフェンタニールによる鎮痛効果の持続はそれ程長くないものと思われた。

## 9. 当院におけるパルスオキシメーターの使用経験

出羽 厚二・佐藤 一範（竹田総合病院）  
北原 智子・遠山 誠（麻酔科）

麻酔管理上、血液ガスモニターが重要な事は当然のことであるが、我々は非観血的モニターであるネルコア社製パルスオキシメーターを日常的に臨床に使用している。その結果、オキシメーターの血液酸素飽和度の測定値は血液ガス分析装置によるものに比べて若干高い値を示すものの非常に高い相関性があり信頼に耐えうるものであった。

パルスオキシメーターは連続的、速時的に患者の状態をとらえるため重症患者の麻酔管理（特に小児外科、肺外科、耳鼻科、呼吸機能低下例）に有効であった。

又、非観血的で、キャリブレーションが不用とその取り扱いの容易さから、麻酔事故予防の見地からも、今後広く手術室に普及するものと考えられる。

## 10. 帯状疱疹患者 200 例へのアンケートから

穂苅 環・渡邊 重行（新潟大学麻酔科）  
松木美智子

麻酔科開設以来、麻酔科にて治療を受けた患者 233 名